

考 察

作文募集および調査結果から考える 新しいライフスタイルとは



特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦

事務局長 江尻京子

こんにちは。東京・多摩リサイクル市民連邦の事務局長をしております江尻京子と申します。よろしくお願いいたします。今日はオンラインということで、会場参加やそれから関係者で本日このアウラホール、何人かの人たちが目の前にいるのですが、とても寂しい状況ではありますが、たくさんの方がいると思いながら頑張ってお話をさせていただこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

先ほど小石実行委員長が作文の募集をしたということ。それから、多摩地域の市町村に対しての調査を行ったということをお話いたしました。多摩市の阿部市長のコメントにも、そのような同じようなことがございました。

そこで、まず私からは作文募集について、何人かの方たちを受賞者とさせていただきましたので、その方たちの作品についてのお話を申し上げたいと思っています。その後、市町村を対象としたコロナとごみに関する調査をいたしましたので、その結果から見てくる私たちのこれからのライフスタイルとはこんなことではないかなということをお話していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

作文募集
私と『コロナ』とごみ

優秀賞の紹介

大河原聡介さん

家にいることが多くなりごみが増えた!!

『たくさんのごみを捨てるようになったので分別をしっかりするようにしています。どうして分別しなければならないのかというと、再利用できるごみが再利用できなくなってしまうからです。』

『コロナでごみの量はたくさん増えたけれど、全部ごみとして捨てるのではなく、再利用できるものもあります。なのでみんなで協力してごみは分別して捨てましょう。』

それでは優秀賞ということで、お二人の方が受賞されました。そのお一人が大河原聡介さんです。小学校4年生の方です。この方はですね、お子さんなのですが、家にいることがとても多くなって、自分の家のごみが増えてしまったことに気づき、作文を書いてくれたようです。全部ご紹介することはできませんが、代表的な部分を少しピックアップして、これからご紹介しようと思っているのです。大河原さんの場合、こんなことを書いてくださっていましたので紹介します。

『たくさんのごみを捨てるようになったので、分別をしっかりするようにしています。どうして分別しなければならないのかというと、再利用できるごみが再利用できなくなってしまうからです。』

これ小学校4年生が言っていることなのです。なるほどと思いますよね。『コロナでごみの量がたくさん増えたけれど、全部ごみとして捨てるのではなく、再利用できるものもあります。なので、みんなで協力してごみは分別して捨てましょう。』ということ子どもなりに社会に向けてのコメントとして書いてくださいました。小学校4年生というのは、学校でちょうどごみの授業をする子どもたちでもありますし、もうこの時期になってくると、4年生から5年生に上がってくるという時期になります。書いてくださった時は、4年生のまっただ中だったと思いますが、その4年生でおそらくごみの問題を学び、そしてコロナ禍でごみが増えてきて、そしてこれを分別しなかったら大変なことになるのだなということを実感を持って私たち大人へも訴えてくれたそんな作品でありました。そんなことから優秀賞ということにさせていただきました。

茂木美帆さん

『道を歩いていると時々マスクが落ちている。私は今らしい光景だなと思った。それだけごみは人の暮らしと密着しているのだ。』

『世界各地でロックダウンされたことで、野生動物を見られるようになったり二酸化炭素の排出量が激減したりしているとテレビで紹介されていた。コロナは人間の日常生活を変えることでこの結果に導いた。このことからわかるのは、私たち一人一人の生活が地球環境につながっているということだ。』

『自分が今、暮らしている街に落ちているごみの少なさに驚いた。』
『今の街がきれいだから、食べ歩きをしなくなった。』

次に茂木美帆さんです。茂木美帆さんは中学生です。茂木さんはどちらからか多摩地域にお引っ越しをされたそうなんです。こちらに引っ越してみたら、とても街がきれいだったということで、この街を汚したくないということがとても強い思いであったようで、このコロナ禍の中で感じたことを作文にしてくれました。一部ですが、ご紹介します。

『道を歩いていると時々マスクが落ちている。私は今らしい光景だなと思った。それだけごみは人の暮らしと密着しているのだ。』ということで、今らしい光景、それがマスクが落ちているということだということで、何となく悲しくなってしまうような光景です。そして、そこから彼女の思いは広がるんですね。

『世界各地でロックダウンされたことで、野生動物が見られるようになったり、二酸化炭素の排出量が激減したりしているとテレビで紹介されていた。コロナは人間の日常生活を変えることで、この結果に導いた。このことから分かるのは、私たち一人ひとりの生活が、地球環境につながっているということだ。』

ただ単にマスクが落ちているということに一喜一憂しているのではなくて、それを起点として世界へ目を向けていくという思いで作文を書いたようです。最後に、『自分が今暮らしている街に落ちているごみの少なさに驚いた。』これは先ほど申し上げましたように、茂木さんがお引っ越しされて今住んでいる街はとてもきれいだったということで、感動をしていたと。そして、『今の街がきれいだから、食べ歩きをしなくなった。』きれいなところには汚いものは集まってこない。ごみがたくさん道に落ちているようなところには、そこがごみ捨て場ようになってしまう。よく聞くことですが、それを実感しているということで、このコロナ禍の中でマスクが落ちているところからス

スタートして、そして世界に目を向け、地球に目を向けと再度足元を見つめ、行動につながったということ。優秀賞とさせていただきます。

<+))X< OO <°)))≡ ◇◇ <+))X< OO <°)))≡ ◇◇ <+))X<

さて、次です。エコにこセンター長賞というのがあります。エコにこセンターというのは、多摩市唐木田にあります八王子市と町田市と多摩市で構成する一部事務組合の多摩ニュータウン環境組合の施設です。多摩清掃工場に併設をされている啓発施設です。実はこのエコにこセンターは、東京・多摩リサイクル市民連邦が運営を受託して、エコにこセンター長は実は私です。エコにこセンター長である私が二つ選ばせていただきました。エコにこセンターは大人から子どもまでいろいろな方たちが、ごみを通じて楽しんだりとか、それから講座に参加したり、イベントに参加したり、粗大ごみのリユース品を買ったりということで、ごみを介しながらちょっと楽しい生活を演出していくという場所です。ですから、エコにこセンター長賞はそういったことで、ちょっとしたエピソード的なことを書いてくださった方を選ばせていただきました。

作文募集
私と『コロナ』とごみ

エコにこセンター長賞の紹介

梅原陽子さん

少しだけ時間ができて⇒生ごみ処理⇒食⇒ごみを出さない調理⇒食育⇒食品ロス
ごみ収集車に手を振る子どもたち

『“もの”を“ごみ”にしないための努力は、心を豊かにしていく作業なのではないかとさえ感じるようになってきた。コロナとごみが私に教えてくれたのは、「あらゆるものへの感謝の念」。まだまだ小さな一歩を踏み出したばかりだが、未来への希望を胸に、この難局を乗り越えていきたいと思う。』

梅原陽子さんは、お子さんがいらっしゃるお母さんなのですが、子どもたちが収集車に手を振っていると、収集車に乗っている作業員さんが手を振り返してくれるという日常があるというところを書いてくださいました。コロナ禍の中で梅原さんも少し時間ができた。時間ができたらやはりごみも増えてきた。そのごみをきちんと捨てなくてはいけないということもあって、分別のカレンダーを一生懸命見ていましたら、そこですね、生ごみ処理機の補助金に目が行ったと。これはいいぞということで、生ごみの処理をスタートした。生ごみをやってみると、食べ物についても気になるようになった。食べ物について気になると、今度はごみを出さない調理について考えるようになった。お子さんがいらっしゃるの、食育も考えるようになった。そして家庭全体の食品ロスすることにまで考えるようになった。子どもたちは相変わらず収集車に手を振って楽しんでいるというような和やかな親子の様子を書いてくださいました。その一部ですが、『ものをごみにしないための努力は、心を豊かにして行く作業なのではないかとさえ感じるようになっていった。コロナとごみが私に教えてくれたのは、あらゆるものへの感謝の念。まだまだ小さな1歩を踏み出したばかりだが、未来への希望を胸に、この難局を乗り越えていきたいと思う。』というようなメッセージを書いてくださっていました。

実は私には2歳違いの2人の息子がおりまして、かつて幼かったころのかわいさたっぷりの彼らといっしょに過ごした時間を思い出し、しばしほっこりした思いを味わうことができた個人的にもうれしい作品でもありました。

作文募集
私と『コロナ』とごみ

エコにこセンター長賞の紹介

松本正樹さん

妻からのプレゼントの手袋を落としてしまったが、それが戻ってきた・・・というエピソード

『物がゴミになるのも宝になるのも心一つではないかと。
コロナ禍の今、日常生活の中で一番大切なものを大切にする、そして人を思いやる優しさだ
と思った。』

もう一人、エコにこセンター長として選ばせていただきましたのが、松本正樹さんです。男性の方です。妻からのプレゼントの手袋を落としたというお話で、ちょっと楽しい文体で楽しいエピソードでした。手袋を落としたこと自体は全然楽しくないのですが、その手袋が戻ってきたというお話なんですね。このコロナ禍で誰のものだか分からないような手袋の片方が、優しい思いの人がいて、そしてそれが戻ったんだということにすごく感動したと。1週間待ってその片方の手袋に出会うことができるとても感動したと。通勤をする途中のアパートのフェンスにその手袋がお手紙とともに置いてあったということを綴ってくださいました。『ものがごみになるのも宝になるのも心一つではないかと。コロナ禍の今、日常生活の中で一番大切なものを大切にする。そして人を思いやる優しさだと思った。』と書いてくださいました。当然コロナ禍で感染を防止することは大切なことであり、重要なことではありますが、それをこれから乗り越えて、もっと人の優しさとか思いやりとか、そういうようなものも大事にしていきたいというメッセージでもあったと思いました。

今後、コロナによってどのように社会が変わっていくのか私にはまったく見当が付きませんし、おそらくみなさんも同じだと思います。でも、人と人との関係を崩していいとは誰も思っていないことでしょう。

さきほどの梅原さんの作品もそうでしたが、コロナと上手に付き合いながら、あらためて人と人との関係を大切にするを作品全体を通して伝えてくれているように感じます。

この2人の方をエコにこセンター長賞に選ばせていただきました。

作文募集
私と『コロナ』とごみ

入選の紹介

大野佑介さん

テイクアウトとプラスチックごみの増大、衛生面と使い捨て容器についての思い

鈴木康平さん

感染予防を考えながら集団資源回収を継続しよう
止めるという選択は一番簡単

大須賀一夫さん

ごみを処理する現場からの決意表明

最後に入選なのですが、3名の方いらっしゃいます。大野佑介さん。鈴木康平さん。大須賀一夫さんの3人。偶然なのですが、3人とも男性の方、大人の方になりました。

大野さんは、テイクアウトをしてプラスチックのごみがとても増えたということについて書いてくださいました。テイクアウトをしたお店に空になった容器をきれいに洗って持っていったが再使用されることはなかった。衛生面のことを考えると確かにその通りかもしれないけれども、もう1歩踏み込んでプラスチックを減らすということを考えてもいいのではないかなと。それを自分もそうだけど、行政も巻き込んで、社会全体でそういう仕組みを作っていくって、お店も自分も得をするというような仕組みを作っていくたいですねということを書いてくださいました。

鈴木康平さんは大学生の方です。感染予防を考えながら集団資源回収を継続しましょう。やめるという選択は一番簡単なんです。やめるのではなくて、どうすれば集団回収を継続できるのかな。続けられるのかな。人は集まってはいけないと言うけれども、どうすればそれを上手に乗り越えることができるのかなということと一緒に考えながら資源回収を進めていきたいと思いますということを書いてくださいました。子どもの時におそらく地域の人とか、それから家族と一緒に回収をした経験があるのだと思いますが、その楽しさとか、それからその時の思い出のようなものがすごく心に残っているような、あまり長い文章ではなかったのですが、大変よい作文でした。

最後に大須賀一夫さんです。大須賀さんは実は多摩地域の廃棄物関係の部署の職員の

方です。大須賀さんは実はこの 4 月にですね、異動で廃棄物の担当になられたようなんですね。役所の異動で廃棄物の担当になると、こんなに大変なのか、こんなふうにして処理をしていたのかと、半ば感動と申し訳なさでいっぱいになるという話を聞くことがよくあります。大須賀さんもそういうところに近い部分での思いがあったのでしょうか。しかも異動をなさってきた中で、コロナが非常に猛威を振るってきたというような現場の中で、職員さんが大変な苦労をしながら、ごみを集めたり処理をしていたりということを間近で見ることになったこと。職員の人たちがコロナに感染しないように気を付けなければいけないということと同時にごみの収集をストップさせないようにしなくてはならないこと。市民の暮らしを守るためには自分たちの仕事というのは非常に大事なものだと思ったということを書いてくださいました。なかなか行政の職員の方がこうして作文に応募をしてくださることはないので、大変うれしく思いましたし、大須賀さんが今後自分がここのポジションにいる時には、もっともっと職員と一緒に、市民の人たちに貢献ができるような仕事をしていきたいということを書かれていましたので、ごみを処理する現場からの決意表明と私が勝手に解釈しているのですが、まとめさせていただきました。ぜひお会いして、どこかでお話をうかがう機会があったらうれしいなと思っております。

以上が受賞した皆さんの作文の紹介となります。全文は報告書に掲載いたします。

実はその他にも、たくさんの方たちが作文を寄せてくださいました。年齢が高い方はやはり過去にはとか、子どもの時にはとか、それから子どもを育てていた頃にはとか、私が子どもだった頃にはというようなことを比較して書いてくださる方が多くいらっしゃいました。

それから、今回の作品の中でやはり多かったのはマスクに関する話です。マスクの捨て方が悪いというのが一番多かったのと、それからマスクの捨て方をもっと考えないと駄目じゃないかということを書かれた方が非常に多かった。もう一つ多かったのが、ちょうどレジ袋の有料化がスタートした時期とコロナの時期がダブったことありまして、一方ではレジ袋を有料にして減らそうと言いながら、テイクアウトはどんどんプラスチック容器を増やしているじゃないかと。これはおかしくないかということで、プラ容器の増加についての意見を書かれたり、私はこんな買い物をしていますといったことを書かれている人もたくさんいらっしゃいました。

この中で、時間ができたということで、自分の暮らしを見直したということについて書いてくださる方もいらっしゃいましたので紹介します。

まず女性の方ですが、毎日 30 分繕い物をすることに決めましたということ。少し時間ができたので、ちょっと破れたとか、ちょっとほつれたというものを簡単に捨てるのではなくて、毎日 30 分針と糸で手を動かすようにして、ものを大切にすることを書くようにしていますということを書いていました。

それから、不要不急の外出はいけませんよと盛んに言われていましたが、近所を散歩することによって、自分の街がどんな街で、もちろんマスクが落ちていたり、ごみが落ちていたりというのはあるのですが、それ以外に例えば川縁を歩くと花が咲いていたり、魚が見えたり、鳥が飛んでいたりと、その自分の街をもう 1 回見直すというような時間を作りながら、自分の暮らしを見直すということをしたということを書いてくださった方もたくさんいらっしゃいました。ありがとうございました。

<+))x< ○○ <°)))≡ ◇◇ <+))x< ○○ <°)))≡ ◇◇ <+))x<



今出ているスライドの真ん中にとことん討論会のマスコットになっているとこちゃんという女の子がいますが、その周囲を見ていただくと、みんなテレワークをしている絵が描かれています。今回これは 28 回 TAMA とことん討論会のパンフレットの表紙に描かれていたもので、それを引用しただけなのですが、このテレワークの中で私たちの暮らしがどう変わっていくのか。それからテレワークとか、それからコロナによる自粛というようなことが、私たちの出すごみに対してどんな変化をもたらしてきているのかというようなことを皆様にもお送りしました「第 28 回 TAMA とことん討論会 コロナとごみ~変わる私たちのライフスタイル~」というタイトルを付けました冊子にまとめました。多摩地域の市町村対象の事前調査の集計をまとめたものになります。

もうパラパラと中をご覧くださいながら、オンラインでご参加をいただいていると思

いますが、簡単に見方と言うか、こんな思いで作りましたというところを紹介させていただこうと思います。

まず最初はこんなアンケートを送りましたということで数ページが費やされています。それから集計に関しての少しコメントのようなものがありまして、そこから順番に可燃ごみについては、どんな変化がありましたか。不燃ごみは、古布は、古紙はと。プラスチックやその他どんな変化がありましたかというようなことが、各市の名前とそこからいただいたそれぞれのコメントを書いた一覧表になります。その後が、各市町村から数値を出していただきました表ですが、まず 21 ページに特記事項ということで、市町村によって少しずつ集計の仕方が違うということがありましたので、回答用紙に記入いただいたおりに一括して書きました。

また、2019年2月から2020年の0月までとその1年前とを比較してみたいということもありました。周囲のようすなどからごみは増えているだろうというのは思いを持っていたのですが、本当に増えたのかをきちんと数字で確かめたいということと、それから感染症によって今後もし今回のような大変な事態になった時に、ごみについてはどう考えていったらいいのか。私たちはごみとどう付き合っていけばいいのか。またそれを処理する行政は何を考えていけばいいのかということのヒントにもなればということもありまして、ご面倒を掛けたのですが、市町村の方をお願いをしまして、2年分の数字を出していただきました。それが22ページから35ページになります。

数字をずっと見ていくと時間がなくなるので、皆様ゆっくり見ながら、特に自分の住んでいる自治体を中心に、他と比較したりしていただくと興味深く見ていただけたと思うのですが、36ページ以降は、自粛期間、その前後期間、及び現在において問題となっているようなことはありますかということを書いていただきました。

36ページ、37ページを見ていきますと、マスクという言葉が結構目立ちます。これは何かというと、マスクのポイ捨てということです。それから、粗大ごみという言葉も割合に目に入ってきます。粗大ごみが増えたということです。そのように同じような単語がどれくらい出てくるのかというのを見ているだけでも、多摩地域ではこんなふうにしてこの時期を乗り切ったのだということが分かるのではないかと思います。

その次の38ページ、39ページに行きますと集団回収。先ほど表彰の中にもありましたが、集団回収のことが書いてあります。集団回収で今まで集めていたようなものが業者さんのいろいろな事情によって、今日はそのお話をうかがいますので、じっくりと話していただいて多くの皆さんで共有したいと思うのですが。いろいろな事情があるとそれは業者さんの事情ではなくて、業者さんの後ろ側にある事情なのですが、私たちは業者さんとやりとりをしていますから、業者さんの事情でしかないんですね。その事情によって、例えば紙とか布とかが止まってしまったと。だから、それを行政回収に出すことにしたというようなことで、行政回収の数字が増えているということもある。それから、本来ですとリサイクルをしてもらえようような紙とか布とか、これを可燃ごみとし

て出してくださいという市町村もありました。で、それについてもこの 38、39 ページには書いてありますので、特に集団回収にかかわりながら、このコロナ禍を過ごしてきた方は関心を持って見ていただけたらと思います。

それから、その次の 40 ページ、41 ページになりますと、啓発事業で苦労したのは何ですかということが書いてあります。やはりイベントの中止。とことん討論会もそうですが、昨年度は中止になりましたが、そういうようなイベントを中止してしまったとかですね。見学会ができなくなったといったことを書いてある自治体が非常に多いです。

一方ですね、YouTube だとか、それから Twitter だとかの SNS。それからホームページは一般化していますが、こういったいわゆるインターネットにかかわるような広報に切り替えていったと。それから、そちらを中心に行っていたということも、これを読んでいくとわかると思います。インターネットはこれからますます発展していきます。私たちの生活の中にもバッチリと入ってくるというものではありません。今後啓発の仕方も、イベントをやったりとか、それからチラシを作ったりとか、見学をしたりというように、体を一緒になって動かしてということが中心ではありましたが、それが今度はネットということで、新しく啓発も変わっていくのかもしれないということが読み取れるのではないかと思いますので、そんなふうにしてこの冊子を使っていただければと思います。

◀+))×◀ ○○ ◁)))≡ ◇◇ ◀+))×◀ ○○ ◁)))≡ ◇◇ ◀+))×◀

調査から

ごみ量

全体的に昨年春から夏にかけては前年よりも増加

衣替え

不要品の整理

テレワーク

埋蔵ごみ

集団回収の休止

テイクアウト

この調査から見えることということで、いくつかまとめてみましたのでご覧ください。まずですね、調査からということで、ごみ量について。先ほどの集計がありましたのと、数字がありますのと、それと同時にそれにかかわる各市町村からのコメントが出ていましたので、それらのものを大きくまとめてみて、こんなことが言えるのではないかということについての話をさせていただきたいと思っています。

全体的に昨年の春から夏にかけては、前年よりも増加をしましたというふうにして書いてあるコメント。それから、実際に数字としてそれが現れているというのがいえると思います。最近になりましてから、今も緊急事態宣言下ではありますが、このところですね。いくつかの自治体に聞いてみますと、比較的落ち着いてきたという話はされています。ただ、相変わらず粗大ごみの電話は多いんですよというようなお話もよく聞きますので、それはもしかするとコロナとは直接関係がなく、片付けることに関心が出てきてしまい。家の中の整理を始めた人もいるのかもしれないですね。

昨年の春から夏に掛けて増加したごみ量。その原因としていくつかあると思いますが、調査の結果とか世界の状況とか、そういったものを見ながら、ここにいくつか並べてみました。

一つはこれ毎年なのですが、春から夏に掛けてというより、最近春という季節があまりないので、寒い時から暑い時に掛けてという言い方のほうが適切かもしれません。それから暑い時から寒くなる時期というのは、衣替えの時期です。衣替えをしないで、365日着れる服を持つとか、クローゼットにすべて吊るしてあるという声も聞かれましたが、やはり夏にオーバーコートを着ているということはないでしょうし、冬にタンクトップ1枚だけを着ることもあまりないだろうとは思いますが、そう考えていきますと、やはり寒い時から暑い時へ。暑い時から寒い時へという時には、自分が持っている服にはどんなものがあるのかということを見直す一つのチャンス、時期になっている。そういう機会になっているということが言えるのではないかと思います。それがちょうどコロナ禍とぶつかった。コロナの緊急事態宣言の最初の時期とぶつかったこともあって、急にお休みになってしまって何をしていたか分からないから、片付けでもするかという人が非常に増えてくる中で、ちょうど暑くなっていくという時期だったということで、たくさん不要な衣類が出てきたということもあって、ごみが増えたことの要因の一つになったと言えるのではないかと考えます。

スライドの衣替えの下に埋蔵ごみとありますが、これは何のことかということ、天袋とか倉庫とか、普段なかなか開けない、使わない場所があります。そうしたところに埋もれてしまっている、本当は使えるのだけれども、もう絶対に使わなくなってしまっているような品物。埋蔵ごみという言葉で私は表しているのですが、埋もれてしまったごみということですね。これがちょうど自粛しなくてはならなくて時間があるということで、そういえば天袋って何年も見ていなかったけれども、この際だから見てみようかしらと思って見たら、これは一体いつ買ったものなのだろう。いつもらったものなのだろう。

いつ入れたものなのだろうというようなものが結構出てきてしまった。そもそもこれは何だったのかわからないというようなものが結構出てきてしまったという話を聞くことが、そうですね、半年ぐらい前によくありました。埋もれているごみが、天袋とか倉庫とか、そういったところから出てきてしまって、そしてそれを処分したということも、この時期にごみが増えた一つの要因ではあったと思います。「いつか」使う日が来るとばかりにしまっておいたけれど、使う日は来なかった。なんせ、記憶から消えていたわけですから。まさに家庭の中に埋蔵していたごみ、もっとも最初は保管しているだけだったので、時が流れて埋蔵ごみになってしまったということ。そしてついに、「いつか」は来なかったという品物ということになるわけです。

スライドの真ん中の上のところ、不要品の整理というのがありますが、これはですね、例えば小学校を卒業して中学生になるという時には、小学校の時に使ったいろいろな文房具品であるとか、学用品であるとか、参考書であるとか、そういったものを整理するのはよくあることです。卒業入学だけではなく進級したときにも不要なものは出てきます。また引っ越しをしたりとか、それから就職をしたりということにも多い時期です。ちょうどその時期と自粛期間が重なったということ。それから、家の中をなかなか片付ける時間がなかったので手を出してみると、これもこれもいらなかったと。引き出しの奥の方にかなりほこりにまみれたスプーンが出てきたとかですね。そんな話も実はうかがうことがありました。タンスの引き出しが奥まで入らないと思っていたら、後ろの方から服が出てきたとか。埋蔵ごみは意図して保管していたものですが、ここでの対象は日常的生活空間での不要品の整理、ものの整理ということになります。

と同時に、ミニマリストとか、それから断捨離とかですね。ものの少ない生活というのがあります。ものは買わないで借りるだけにするというような生き方、暮らし方も出てきています。そうした視点で周囲を見渡すと不要だと思われるような物品はたくさん出てくるわけですから、そういったものをいっそこで全部捨ててしまおうというような状況もあったのではないかと推測しています。

今の不要品の整理の下に集団回収の中止というのがあります。紙の回収、それから布の回収が中止になり、集団回収がストップしてしまったりとか、一部お休みをしてしまったりということがあったという状況は私も経験をしましたし、私の周囲でもそんな話が出てきました。集団回収によって回っていた資源が、行政の回収の方に出すことで行政回収が増えたということは、データとして数字が上がっていることでもわかります。

さて、あとふたつ。右側のふたつ。テレワークとテイクアウトと書きました。テレワークの方は、先ほどの絵にもありましたように、パソコンだけではないのですが、会社でやっていた仕事を家でやっているというわけです。会社が家にちょっと来ているという状況でもあるわけですね。これに対して、いくつかの自治体の方がコメントして書いていたことがあったのですが、最後に誰が書いたとは言わないから、思いの丈を書いてくださいというのを、とことん討論会で調査を行う時には付録として付けるのですが、

今回もお願いしましたが、そこから出てきたことの一つに、事業系のごみが家庭ごみに入ってきているというのが最近すごく増えていると。今後それをどう考えて、どう扱えばいいのか。テレワークが増えるということは、仕事を家でするということで、そこから出てくる業務のごみ、事業としてのごみ、それが普通の家庭ごみと一緒に捨てられていると。当たり前ですが、ごみがそれだけ増えているということです。コロナ禍のこの時期は、お店がお休みになったり、会社に行く人が少なかったりということもあったので、事業所のごみはどこも減ったという声を聞いていますし、今回は数字を出してもらっていませんが、いくつかの自治体からは事業系一廃が減ったということはどうかがっています。でもごみの総量が減っているわけではなくて、そのごみの排出場所と行き場が異なっているだけです。事業系ではなくて、家庭系に入ってきたというだけのことだと考えると、今後まさに新しい生活、新しい働き方をする中で、ごみ全体をどのように考えていくべきなのかという大きな社会問題が挙がっているのではないかと思います。

また、先ほども入選の方でテイクアウトのプラスチック容器のことを書いた方を紹介しましたが、お惣菜などを届けてもらったり、買ったりする時には容器が必要です。お店に食器などを持って行って入れてもらうこともあるでしょうが、お店で用意した容器を利用することが多いと思います。プラスチックではなく、お店の努力で紙容器であったりとか、いわゆる生分解性のプラスチックであることもありますが、そういった容器を使っても食べ終わったらごみになる。もちろんテイクアウトやデリバリーが悪いわけではありません。いずれもそれなりの楽しさはあるし便利さもありますし、お店屋さんも新しい商売の方向としてこれからも多分進んでいくのだらうと思います。でも、これをどんどん進めていった時のごみとの関係をどのように考え、解決していけばいいのでしょうか。

こうした容器の問題は、コロナにかかわらず長く問題視されてきたことです。しかし、なかなか広くみんなで考えることができずに来ました。コロナをきっかけに売り方、買い方を議論していくことが重要なのではないのでしょうか。

調査から

課題

密を避ける ×ふれあい収集 ×見学会 ×イベント ×集団回収

テレワーク ×事業系ごみの混入

古布回収のストップ ×可燃ごみの増加

買い物の変化 ×ダンボール箱の増加 ×プラごみの増加

マスク ×ポイ捨て ×捨て方

そういったことをふまえて、課題としていくつかピックアップしてみました。

まず密を避けるというのがコロナ禍の中で非常に重要だと言われていることです。密を避けるためにできなくなったのが、ふれあい収集という、高齢の方とか障害を持った方とかですね、病気の方とか、お家の中まで入ったり、それからお庭の中まで入ったりして、ごみを預かってきたりとか、粗大ごみを外に出すお手伝いをしたりとかというような収集の仕方がありますが、それが密を避けるということで、家には入れなくなったわけです。これは安否確認も一緒にやっている地域が多いのですが、なかなかできない。それから、見学会とかイベント、それから集団回収。こういった人が集まって一緒に何かをやりましょうということができなくなってきている。これどうしようかというのが一つの課題ではないかと思います。

次にテレワーク。これは先ほども申し上げました。事業系ごみが混入しているというのが実態としてあります。これはまさに考えなければいけません。小さなお店だったら、家庭のごみと一緒に出してもいいのですよという自治体もあつたりしますが、ちょっとそれとはまた違う状況が出てきていることもありますので、テレワークとごみの問題というのは、また改めてどこかで議論する必要があると思っています。

それから、古布の回収のストップということで、いわゆる古着、着れなくなった洋服がほとんどなのですが、これが可燃ごみに入ってしまったという状況。業者さんも行政も布の回収をストップしますから、燃やせるごみに入れてくださいとか、それから少しずつ燃やせるごみに入れてくださいといったことで、なかなかこれがいい方に改善していかないという状況です。今日は内田さんからそんな話をさせていただけるといいますので、私もしっかり聞きたいと思っています。

それから、買い物の変化として段ボール箱の増加。段ボール箱がなぜ増加するかというと、皆さんもおやりになっているかもしれませんが、いわゆるネットでのお買い物です。家にいてそれで注文すると、次の日とか次の次の日とかに大きな段ボールで小さな商品が届いたりということがあります。届ける業者さんというか、企業というかにしてみれば、サイズがまちまちな箱よりも、その方がコストが安いし、自動化してスピーディーに届けられるとの理由だそうですね。注文した人は早く届けてほしいんだから仕方ないよということで、大きな段ボールで小さなものが届いたりということは致し方ないと言えばそれまでですが、それでいいのかなと思います。そういう商売の仕方をいつまで続けていいのかなと。私たち、消費者としてそれを認めてもいいのかなというのは、考えていかないといけないと思います。段ボール箱も相当増えていて、そしてこれはもう本当に集積所を見ると、段ボール箱がすごく出ているということで、もう目に見えて段ボール箱が多くなったなというのが分かります。どこかのお家がお引越してくると、段ボール箱がすごく増えるわけですが、お引越しがあつたわけでもないのに、段ボール箱がすごく増えているというような状況が見られていました。これは今も続いていると思います。おそらく買い物に関しては、毎日買い物に行かないようにとか、それから買い物に行く時にはまとめ買いをしましょうとかですね。1人で行きましょうとか、いろいろな提案がこの期間には出てきました。そうなってくると、やはり家族で、それからお友達と、ご夫婦でちょっとおしゃべりしながらゆっくり買い物を楽しみたいというのが、悪いことのようなそんな印象を受けてしまうような事態が起きていました。ですから、これをですね、ワイワイとしながら家で、いや、こっちじゃなくてこっちがおいしそうとかですね。こっちじゃなくてこっちの方が良さそうだからこれを買おうよというふうにして相談をしながらお買い物をするとなると、やっぱりインターネットになってしまう。そうすると、届く時には段ボール箱に入ってきてしまって、これがまた増えていくと。事業所の場合には、最近は通い箱が当たり前になってきましたので、商品だけ置いていって、それを入れてきたケースは持ち帰るというところがすごく増えてきましたが、なかなか家庭の場合にはそれができないということを考えると、ますますこの段ボール箱が増えるという実態が出てくるのではないかなと懸念される場所です。

それから、やはりプラごみの増加ですが、これもですね、先ほども申しあげましたような、テイクアウトの話がありますが、やはりテイクアウトだけではなくて、プラスチックにきちんと包装されていたりとか、それから空気を抜いた形で、いわゆる真空パックのようなお惣菜であったりすると、長持ちをします。長持ちをするということは、食品ロスがなくなると。食品ロスがなくなるのはとてもいいことなのですが、その分だけプラごみってやっぱり増えていきますよねというような状況があります。お買い物の回数を減らそうということになれば、買ってきたものを長くそこに置いておけることが必要になるわけですから、そうなってくるとどうしてもプラスチックのごみが増えていく状

況というのは、致し方ないのかもしれないけれども、それを本当に許していいのだろうかということを考えなければいけないということは言えるのではないかと考えています。

ブラごみと言うと、プラスチックの容器のことばかりが話題になっていますが、プラスチックでできている製品のことについても、やはり私たちはもう少し考えていく必要があると思っています。プラスチックと聞きますと、固くてしっかりして壊れにくかったり、軽かったりというような特徴を持ったもので、例えば箱であるとか、こういうような製品であるとか、そういったことを想像するのがほとんどなわけですが、実は今日も私、プラスチックだらけという状況ですが、上から下までプラスチックなんですね。何かというと、化繊の洋服なんですね。純毛でもないですし、それからオール木綿でもないですね。なので、私、プラスチックなんです。なので私たちはプラスチックの恩恵というのをすごく受けているわけですから、ただ単純にプラスチックが駄目とか、プラスチックのごみを敵に回すとかではなく、うまい形で共存していくための方法を考える必要があると思います。

応募していただいた作文の中に、コロナの菌と共存をしていくという社会にこれから変わっていくのではないかとありました。ただ単にやっつけるとかそういうことではなくて、共存して行って、そして上手に乗り切っていくというような暮らし方を私たちは選ばなくてはいけないのではないかとというようなことを書いている方もいらっしゃいました。同じようにプラスチックも、ただ単にプラスチックのごみが増えると嫌なのよねとか、プラスチックは嫌いなのよねとか言っているけれども、絶対にプラスチックなしの生活はできませんから、そこをしっかりと見つめて、そして正しい知識を得ながらどう共存していくのか。どう利用していくのかということ、賢く考えていく必要があるのではないかと考えています。

最後の項目はマスクなのですが、マスクはですね、これはもう本当にどこに行ってもコロナイコールマスクみたいなことがありまして、今日も私もマスクをしておりますし、不織布です。それから会場の中でもマスクをしていただいていますし、普段街を歩く時も、それから仕事をする時も、学校でもマスクは付けていないといけないというような状況になってきています。いつまで続くか分かりませんが、当分こんな状況が続くのであろうと考えられます。そうしますと、先ほどの作文の中でもご紹介した中にもありましたが、道にマスクが落ちているなんていうのも当たり前前の状況になってきています。それって当たり前であっていいわけでは絶対にないわけですよ。そう考えると、このマスクのポイ捨てというものをもう少し真剣に考えていく必要がある。

それから、先ほど手袋の片方が見つかったということを書いてくださった方がいらっしゃいましたが、その方もやはりマスクを含めて、こういったようなものを捨てるというのは、自分も少しはばかられるところがあるという思いを少しだけ匂わせて書かれていたというのがありました。手袋が片方戻ってきて非常にうれしいという思いが

ある一方で、マスクのようにどこの誰がどんな状況で付けていたのかわからない。マスクを触ったからすぐにコロナに感染するということではないとは思いますが、でも決して素手で触っていいものではないという認識は、多くの人たちが持っているものであろうと思います。そう考えるとポイ捨てはしないと。それから捨てる方をきちんと私たちは学ぶということも必要になってくるだろうと思います。マスクは不織布ですのでこれはプラスチックです。それから、マスクを捨てる時には、ポリの袋に入れましょうと言っていますがプラスチックです。というようにですね、プラスチックのごみがどんどん増えていくような状況が実はコロナ禍の中にはあるんですね。だから、そういうことを少しトータル的に考えながら、私たちは今後どういう暮らしを新しい生活のスタイルとして考えていったらいいのだろうか。新しいライフスタイルとしては、どういったことを考えていったらいいのだろうかということが大きな課題として出てくるだろうと思っています。

<+))x< ○○ <°)))≡ ◇◇ <+))x< ○○ <°)))≡ ◇◇ <+))x<

「コロナ」からの学び



新しいライフスタイル

○○を大切にする暮らし方

今日の私のテーマは、作文募集及び調査結果から考える新しいライフスタイルとは？ということ。従いまして、この新しいライフスタイルとは？ というところを少しお話をさせていただいて、おしまいにしたいと思っています。

新しいライフスタイルとか、新しい生活様式とかっていうのは、去年のコロナが巷に

どんどん広がってきた時以降、毎日のようにテレビから、専門家の人たちがおっしゃっている言葉でした。新しいライフスタイルとか、新しい生活様式というのは、コロナに絡めて考えると同時に、せっかくコロナになったのだから、これを利用しなきゃ損だよねってようにしたたかに考えなければいけないと最近思っています。自分の暮らしを見直すということは、個人個人でいつもいつもやっていかないといけないことだとは思いますが、このコロナという共通のものが、私たちの中に一つポトンと落ちてきたことで、今回この新しいライフスタイルというのをみんなで、比較的同じ方向で考えられるのではないかとすることに実は私はちょっと期待をしている部分があります。

コロナからの学びということで矢印を付けておきました。コロナから学んだことでの新しいライフスタイルとはどういうことなのかということを考えて時に、特に応募してくださった作文を読みました時に、今回非常に多かったのが、〇〇はとても大切なことだと思いますとか、〇〇をすることは、私たちの暮らしの中でとても重要なことだと思いますとか、〇〇を大切にしていかなければいけないと思いますといった、大切にするという言葉を使って作文を書かれた方が非常に多かったという印象がありました。それから、先ほど市の職員の方で1人、入選の方がいらっしゃいましたが、その方の作文の中にも、市民の生活を大切にするために、その市民の生活をきちんと、日常の暮らしが行うことができるようにする。それを大切にするために清掃員の人たちが健康でなければいけないといったことを書いている部分がありました。ここでもやはり〇〇を大切にするという、そんなことを暮らしの中で考えることが重要だということのをぞき見ることができたのかなと思っています。

そこで、〇〇というところですが、これは人によって入るものはいろいろ違うだろうと思います。例えば人を大切にする暮らし方というものもあると思いますし、ものを大切にする暮らし方というものもあるだろうと思います。人を大切にする暮らし方をするためには、じゃあ何をすればいいのかというところで、例えばさっきのマスクのことを考えると、マスクのポイ捨てをするのは、人を大切にはしていませんよねということも言えます。それから、ものを大切にする暮らし方考えた時にも、何でもかんでもポイポイと捨てる。それではものを大切にする暮らし方にはなりませんよねというようなことにもなってくるのだろうと思います。〇〇を大切にする暮らし方というところの〇〇は、人によって入るものは全然違うわけですから、ここはいろいろなものを入れながらですね。暮らしを見直したりとか、自分が今は何を大切にする暮らし方をしたいのかなというようなことを考えてみるのがいいと思っています。

なぜこれがコロナからの学びなのかということですが、コロナはいいことではありませんけれども、私たちに考えるというチャンスを与えてくれたということを見ると、全くもってこれを敵にすることはできないと思います。それから、時間をくれたということをするごく言っている人もいます。時間をくれることによって、私たちは私たちの周囲から私たちの生活を考えるチャンスがもらえたということもあります。それから、これ

は日本だけのことではなかったということで、世界がどうなっているのだろうということで、改めて世界地図を出したと。改めてコロナから世界を学びなさいと言われて、もう1回世界地図を出して眺めたというような話も聞いたりします。そんなことを考えると、このコロナという私たちにとっては大変なものではありますが、でもこれが一つの共通項となって、これから日本だけではなく、世界の人たちが一緒になって新たな方向に進んでいくことができるだろうと。人が動けば必ずそこで発生するのがごみなんです。人が動けばごみが発生するわけですから、コロナから学びながら、私たちは私たちの暮らしの中から発生するごみをどう生かし、それから場合によっては戦いになるかもしれませんが、どう共存していくのかと。それからごみを出さないような生活とはどういうものかを考えていくことも大きなポイントになってくると思っています。

例えば、時間を大切に作る暮らし方というのもいいかなと思いますし、気持ちを大切に作る暮らし方もほのぼのとしていて非常にいいと思います。それから、自然を大切にするというのもいいでしょうし、街を大切に作る。それから家族を大切にするとか、私を大切にすることとも言えるのではないかと思います。この〇〇を大切に作る暮らし方というのが、実は新しいライフスタイルの一つの方向性として考えていただいているのではないかと思います。

そんなこんなでちょっと長い話を久しぶりにさせていただいて、退屈をなさった方もいらっしゃるかもしれなくて申し訳ないのですが、このコロナという機会を私たち、全人類がですね、共通に体験していること、そして命をも脅かすコロナが好きという人はいないと思いますので、同じ思いになって、仲間として、新しいライフスタイルを作り出していくことができれば、今日のこのことん討論会も一つの機会となって、大変有意義なものになるのではないかと思います。

私の方からは作文募集についての状況、それから市町村対象のコロナに関する調査をしたところから出てきて読み取れたものなどをベースにした上での新しいライフスタイルとはこういうものなのかなというところを今日は発言をさせていただきました。というところで終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。